

人を呼び込む

鉄道のチカラ

コロナ禍で鉄道各社の経営状況が悪化する中、それでもコンテンツ力やSNSを活かし、積極的に盛り上げていこうとする動きもある。早くからSLの動態保存に取り組み、

「きかんしゃトーマス号」を運行する大井川鉄道では昨年、新駅が開業し、地域全体で新駅周辺の魅力を発信している。

また、岳南電車では昨年11月、1カ月間にわたり分散型の鉄道イベントを実施。SNS戦略にも長け、イベントの様子は広く拡散。大きな話題を呼んだ。両社のウィズコロナ、アフターコロナに対する取り組みと、それを支える現場力を追った。

取材・文◎小倉沙耶（鉄道アーティスト）

撮影◎加藤有紀



人は密になってはいけませんが、
連携は密に

大井川鉄道

大井川鉄道が2014年より行っているのが、アジアで初めてとなる「きかんしゃトーマス号」の運転である。今や全国でSLの復活運転が行われているが、これほどまでしつくりくるコラボレーションがあったらうか。なるほど大井川鉄道が、これは期待できると、鉄道愛好家だけではなく鉄道にそれほど興味のな

い方々の心も大きく動かした。実際に運行を開始すると大きな話題となり、私自身、大井川鉄道はどこにあるのか、どうやって行けばよいのかと、これまで鉄道とは全く無縁だった方からも多くの質問を受けた。きかんしゃトーマスのポテンシャルを身に染みて感じたし、そのコラボを成し遂げた大井川鉄道はやはり求心力に長けているのだと改めて感じた。その求心力の源は何なのか。それを知るため、私は新金谷駅へと向かった。

歓声の響く新金谷駅

新金谷駅を出て新金谷車両区へ向かうと、賑やかな音楽と子どもたちの歓声が聞こえてきた。きかんしゃトーマス号運転日に開催されている「トーマスフェア」では、トーマス号の出発準備の様子や点検作業などを

間近で見学することができる。転車台ではジェームス号が晴天の下で赤く艶めくボディを来場者に見せていた。

車庫の二階は見学用の通路として整備されている。斜め上からメンテナンスの様子を見ることが出来るほか、背後側には大井川鉄道に関する資料やグッズなどが納められている。窓は大きく取られ、子どももゆっくり眺めることができる。広報室の山本次長によると、見学コースをつくったのは、トーマス号運転より2年前の2012年。きっかけは、新東名高速道路の静岡県区間開通だったという。島田金谷インターチェンジの供用により家用車でアクセスが良くなり、もっと新金谷でSLを楽しんでもらえるのではないかと考えた。見学路を整備し、500円（小学生以上）で工場見学を行えるようにした。現在、きかんしゃトーマス号乗車の場合は無料で入場することができる。

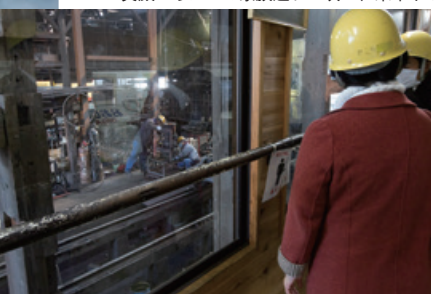


大井川鉄道株式会社
広報室 次長 山本豊福



笑顔いっぱいの家族連れが次々、乗車する

© 2021 Gullane (Thomas) Limited.



左から：メンテナンスの様子をじっくり見学／特別に機関室の中にも入れてもらった／「トーマスフェア」で転車台にはジェームズが！／私も念願のトーマス号に乗車

観光客と地元民で賑わう「門出」

新東名高速道路島田金谷インターチェンジの供用から8年。2020年11月12日に開業したのが「KADODE OOIIGAWA」、「おおいなび」、そして「門出駅」だ。いずれも島田市、大井川農業協同組合（JAおおいがわ）、大井川鐵道、中日本高速道路の4者連携により、賑わい交流拠点として整備された。JAおおいがわが運営するKADODE OOIIGAWAはマルシェやレストラン、キッズパークなどを揃えた複合施設で、観光客だけではなく地元の方たちも利用し大いに賑わっていた。同施設の鳴海広報担当によると、イベントスペースなども設けられたことで、これまでパフォーマンスをする場所が限られていた地元の団体などからも期待されているとのこと。また島田市は「緑茶化計画」として、基幹作物である緑茶を大々的に推している。KADODE OOIIGAWAでは緑茶工場体験や自身に合ったお茶を選べるスタンダードなど、さまざまな形でお茶を楽しむことができる。

「まだオープンして間もないのでこれからなんですが、今後、大井川鐵道さんともタッグを組んで、観光振興に取り組んでいけたら」と楽しそうに話す鳴海広報担当の姿に、明るい未来が見えた気がした。

実際のところ、コロナ禍で積極的な広告宣伝は待ちの姿勢が続く。観光バ

スなどの誘致が難しい中、自家用車でインターチェンジを降り、パークアンドライドとしてKADODE OOIIGAWAを利用、大井川鐵道を楽しみ、帰りにマルシェで買い物という流れを加速させていきたいとのことだった。

門出駅に列車がやってくると、施設内外からカメラを持つ人々が集まってくる。列車と駅名標を一緒に写真に納め、皆満足そう。35年ぶりの新駅となった門出駅の隣駅である合格駅は、門出駅開業と同時に五和駅から改称された。めでたい駅は人の心を明るくする。

魅力たっぷりのトーマス号

新金谷駅へと戻り、続いてはお待ちかねのきかんしゃトーマス号へ乗車。待ちかねた子どもたちの歓声に、期待が膨らむ。私が乗り込んだのはオハ47形客車。旧国鉄然とした車両と子どもに人気のトーマスとの組み合わせはどうなのだろうと思っていたが、車内に入ると軽快なBGMが流れ、座席ごとにかけられたシートカバーもトーマス柄。ポップなイメージに様変わりしていた。子どもたちもキャラクターを指差しご満悦。列車が走り出すと、にこやかに手を振る地元の方が目立った。茶畑の中から手を振る方たち。嬉しそうに手を振り返す親子連れ。

「今日SL全部乗った！」

可愛らしく車内販売員に報告をする男の子は、東京から来たそう。午前便



上／門出駅ホームにて。SLが通過する
左／KADODE OOIGAWA 経営企画部の鳴海
麗広担当
右／県下最大級の売り場面積を誇るマルシェ
下／門出駅のお隣は「合格駅」！



上／「緑茶診断」で自分に合った緑茶を見つける
右／緑茶や緑茶に合うお菓子などが豊富に揃ったショッブ



のトーマス号、Sしかわね路号、そして午後便のトーマス号と、大井川鐵道のSL運行を完全制覇。翌日は井川線のアプト式列車に乗るのだと、親子で楽しそうに話してくれた。

トーマス号と大井川鐵道の気概
何度乗っても飽きない大井川鐵道のSの魅力は何なのか。それを知るため、大井川鐵道の社員の方々に話を

伺った。そもそも、なぜ大井川鐵道でトーマス号が走るようになったのか。
「元々は、日本でのライセンスを持つソニー・クリエイティブプロダクツさんからお願いがあったんです」と話すのは、経営企画部の岩本さん。トーマス号運行に際し、同社との折衝などを行ってきた。SLといえば大井川鐵道ということで白羽の矢が立ったという。半世紀近くSLを動態保存している実績が買われてのことだ。
2013年、貸切バスのワンマン運転に実車距離の上限がかかり、関東方面からの日帰りバスツアーを大井川鐵道沿線へ呼び込むことが難しくなった。団体客が減少する中、トーマス号運行プロジェクトが持ち上がる。大井川鐵道は、個人客を主体にする方向に舵を切った。実際、トーマス号の利用者は、個人の集合体である家族連れが主だ。
きかんしゃトーマス号を走らせるには、キャラクターの意匠に合わせた機関車を造り上げる必要があるが、そもそも実車と形も違う。そこをよりトーマスに寄せていく作業は大変だったと、SLのメンテナンスを日々行う、新金谷車両区の松本助役が話してくれた。
「例えば、ボディの赤いラインにしても幅の指定がないんです。だから、イメージを損なわないように、自分で考える。平面のデザインを頭の中で立体に描き起こすわけです」
さまざまな手続きを行い、ヘッドライトの移設やデフレクター（除煙板）

を外し、顔部分を取り付けるなど、見た目だけではなく設備なども大きく変わった。しかし、総重量に相違があったとはいけない。制約があり、前例のないことへの挑戦は手探りだった。そんな中、実現に際しては中部運輸局からのアドバイスなどもあったそう。
運行当初は想像以上のお客さまの熱気に社員皆が驚いたという。その熱狂度に、コンテンツの力を感じた。
「トーマス号は大井川鐵道の『玄関』となりました。この威力は大きいですよ」と話すのは山本次長。大きな広報効果を実感したようだ。現在も、門出駅にトーマス号がやってくる時には、見学者の整理のため社員を配置するという。
しかし、トーマス号そのものの人気に頼っているだけではない。大井川鐵道ではリピーターを生み出すため、アンケートを実施。満足度を高めようと、ソニー・クリエイティブプロダク



(左から) 大井川鐵道株式会社 経営企画室 岩本陽翠、鉄道部長 坂本光司、営業次長 伊藤和則、新金谷車両区助役 松本幸一



上／まず検温！ 下／ソーシャルディスタンスを守りつつ、イベント内容の説明を聞く



上／参加記念のグッズ一式
右／しんと夜が更け、静岡おでんを温めていただく



上／吉原駅に停車した車両2台が今晚の宿泊先
左／やってきた寝台特急サンライズに皆で手を振る 下／「禁断」を許されて(?)就寝



ツのバックアップの下、毎年新キャラクターを登場させたり、クリスマス塗装などに何度も来なくなる仕組みづくりも活発に行っている。

また、トーマス号の乗客は、テーマパークに来るような感覚の方が多い。だからこそ、感染防止対策にも手が抜けない。現在、大井川鐵道の全車両に抗菌加工が施されているが、これらを真っ先に行ったのは、トーマス号用の車両だった。もう一つの人気列車であるSしかわね路号では、車内にてハーマニカ演奏などで盛り上げる専務車掌が乗務しているが、こちらは車内放送のみでの案内に。コロナ禍で本来のサービス提供がしづらい中だが「人は

密になってはいけませんが、連携は密にして今後につなげていく」と坂本鉄道部長が話される姿に、大井川鐵道の気概を感じた。

また、伊藤営業次長からは「行政や市民の観光を盛り立てよう、楽しもうという熱意もすごいんですよ」と、島田市役所観光課が企画したツアーパンフレットを見せていただいた。大井川鐵道を利用する企画もあり、どれも抽選となる人気だったようだ。

密に出来ない時代だからこそ、妥協なく、より心温まるサービスを提供する。もちろんコンテンツも大切だが、やはり人を呼び込むのは人の熱意なのだ。

双方向のツイッターでリアルを補完

岳南電車

鉄道のみならず、さまざまなコンテンツにおいて、密になり大勢が集う場となるイベントには慎重な姿勢が続く。そんな中、それを逆手に取った企画を目にした。

「秋の岳南電車まつり月間」——月間!? 目から鱗だった。多くを集客することが難しければ、分散して一つ一つを小規模開催すれば良い。いや、そうだけでも、なんと潔いことか。そして、小規模でひっそり行うのに相応しい、マニアックなイベントが盛りだくさんだったのだ。「岳鉄機関車ガイド(極)」「音鉄トレイン」といった、目にするだけでワクワクする企画の中、一層目を引いた「ナイトステイホームin吉原」に参加した。

参加者だけの秘密の時間

ナイトステイホームin吉原は、駅に留置された列車やホームで一晩を明かすイベントだ。定員は15人。参加者にはアルミマットや懐中電灯、参加記念品のグッズなどが手渡され



(上から) 岳南電車株式会社 鉄道部長代理 井上昌久、鉄道部係 竹村優一郎

たほか「寝床確保券」と書かれラミネートされたA4の用紙に氏名を書くよう促される(ニックネーム可)。列車内やホームの好きな場所にその用紙を置き、寝床を確保。あとは好きなように時間を過ごす。配布物の中には、パウチングされた静岡おでんもあった。ホームに用意された湯煎鍋を使っで、好きな時に温めていただく。食すのはどこでも良いのだが、特等席として、ホームにJR側の線路に向けて長机と椅子が用意されていた。なんと素晴らしいトレインビュー夜食!

「そろそろ下りのサンライズが通りますよ」

スタッフに案内され、参加者はそれぞれホームにスタンバイ。やってきた列車に皆で手を振る。一人振り返ってくれましたねなど、見知らぬ方とも話が弾み、一夜限りの仲間になっ



上／岳南富士岡駅で降車。青空が広がる中、右手側にくっきり富士山が！ 左／いまだに残る貨物線のレールをたどって歩く 下／小さな橋梁を渡る岳南電車を撮る



上／車両基地について長田係長のお話を拝聴 右／簡易式遮断機の正しい渡り方を教えていただく



深夜、有志が集まって静かにまちのスポットを巡る「深夜徘徊ガイド」なども楽しみ、普段ならばタブーとされているロングシートやボックスシートに寝転がっての就寝。存分に満喫し、早朝5時には発車ベルで強制起床。参加者だけの秘密の時間はお開きとなり、吉原駅は日常の姿へと戻った。

線歩き、さまざまなスポットを巡る。第4種踏切である神谷東踏切には、歩行者自身がポールを上げる、簡易式遮断機が取り付けられていた。参加者一人、実際に押し上げて踏切を渡る。本吉原―岳南原田間の興人南踏切にも同じ仕組みが用いられている。

のんびりと歩き、隣の須津駅へと向かう。途中、長田係長が小学生に声をかけた。聞けば、運転士の息子さんとのこと。短い会話だったが、まちに少しだけ溶け込めたような気がした。

みりん製造会社の引き込み線跡や、岳南電車を見上げることができる貴重な撮影スポットである前田開渠・須津開渠など、列車の車窓からでは気づか

なかった小さなスポットを、鉄道会社の社員が拾い上げ、丁寧に解説してくれるというのは、何とも贅沢。何気ない場所にも再発見スポットがあることを、じっくりと知ることができた貴重な時間だった。

貨物営業終了で変わった社風

ナイトステイホームin吉原も、岳南再発見！なるほど探訪ツアーも、スタッフが楽しそうにイベントを進めているのが印象的だった。面倒だという声は起きなかったのだろうか。

「いや、すごく協力的でしたよ。技術部門、運転士、駅務部門の3部門に分かれて提案してもらったんですが、他が盛り上がっていると、他部署はうちもがんばろうといった雰囲気です」

そうにこやかに話されるのは、井上鉄道部長代理。ただ……と続けた。

「元々そういった社風だったわけではないんです。きっかけとなったのは2012年に貨物営業がなくなったこと。旅客収入のみになってしまった。実はそれまで、旅客への営業はほとんど行っていなかったんです。社内にそういった雰囲気もなかった。ここから、危機感がじわっと生まれました」

では、そこから社員が企画や営業をどんどん立案していったのかと思いきや、最初は外部の動きの方が活発だったという。

「貨物営業がなくなった翌年に、

ちょうど富士山が世界遺産になったんです。その勢いもあって、学生さんや地元の方、さまざまな方が岳南電車を活かすために動いてくれました。愛着を持っていてくれる方が多かったのが救いですね」

外部からの刺激を受け、社内に「企画営業課」が誕生した。月に一度グループ会議を行い、意見や企画を拾う場を設けたことで、より風通しも良くなったそうだ。

「企画はつぶしません。無理とも言いません。やってみてダメだったら変えていけばいいんです。まずは勢いが大事ですね」

なんとという柔軟さ。ひょっとして、そういった土壌があるからこそ、SNS戦略も上手くいったのだろうか。

「元々、運行情報をブログで発信していたんですが、なかなか伝わ



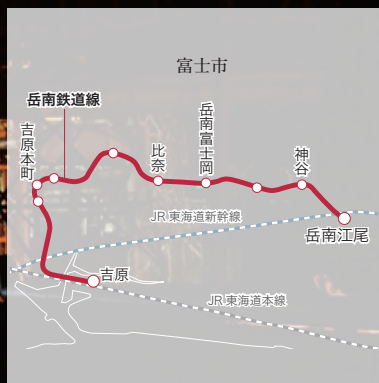
「岳鉄再発見！なるほど探訪ツアー」を企画した岳南電車株式会社 鉄道部技術区係長 長田晃、同係 佐々木洋紀





らなくて。そこで、ツイッターを運用してみないかと相談したのが、SNS発信のきっかけです」と、鉄道部の竹村さんが成り行きを語ってくれた。

「だから、最初はツイッターで運行



情報をつぶやいていたんです。せっかく弊社のキャラクターである岳ちゃんのイラストもありましたから、それをつけて」

岳ちゃんのアカウントは後に運行情

工場の中を走る (写真提供/國分義久)



左から：ライトアップされた工場群／車内の照明を落としているのは光量の小さな明かりも楽しめるように／夜景は優しくあたたかく、ここに響く

報以外のつぶやきが多くなり、運行情報発信のアカウントと分けられた。「岳ちゃんのひとりごと」と称するつぶやきは多くの共感を呼び、現在のフォロワー数は1・6万人となっている。

「ツイッターの対応は駅での窓口業務に似ていると思うんです。反応してくださるお客さま一人一人にできるかぎりの対応をする。そうすることにより岳南電車が記憶に残る。一方向の発信にはならないようにするのが大切なんじゃないかと思っています」

ツイッターは双方向のコミュニケーションが核となるSNSである。だからこそ、反応へはきちんと返すようにしているという。

「ツイッターはリアルな補完だと思っています。公式にいいねされたら嬉しい。つぶやきに対して一押ししてあげる。公式がいいねしてくれたんだから、行こう、やろうと思える」竹村さんの意見に、井上部長代理も頷く。

「アフターコロナの時代においても、SNSは重要です。紙ベースではないもので何かを伝えられるということは、とても大きい。1万人に何かを伝えるというのがどれだけ大変なことか」

まず、岳南電車のことを知ってもらうことが重要だと、二人は口を揃える。来て来てと積極的に言いづらい現在、つぶやきを工夫して潜在的ファンを増やし、アフターコロナに備える日々が続く。

夜景電車にも「人の力」

最後に、岳南電車の代名詞ともいえる企画列車「夜景電車」へ乗車した。2014年4月に、岳南電車は鉄道本体として初めて日本夜景遺産に認定、その時に夜景電車の運行がスタート。運輸区スタッフの多くは夜景観光士の資格を持つ。車内アナウンスやスタッフの補完説明を受けながら、工場だけではなくさまざまな明かりを楽しむ。

岳南原田駅を過ぎると、線路は日本製紙富士工場内へ。ライトアップされた幻想的なパイプラインの森の中を、徐行しながら列車が走る。工場の中を列車が走るの、岳南電車のみだという。五感全てを使って楽しむのも、夜景電車の特徴だ。コーヒー工場の焙煎の香り、電鈴式踏切の鐘の音。そして、岳南江尾駅で行われていた、ボランティアによる竹灯籠のライトアップ。夜の景色に溶け込んでいた魅力の欠片たちが、研ぎ澄まされた体に染みこんでいくような気分だった。

岳南電車の魅力を何倍にも引き立てているのは、やはり人の力だ。好きという力はとても尊い。岳南電車が好きで、魅力を伝えたい人が集まる。その良い空気感は、オンライン上にも伝わる。雰囲気を感じ取り、SNS上で情報が拡散され、さらに興味を持つ人が増える好循環。そのスパイラルの片鱗に触れ、私にとっても岳南電車がますます身近な存在となった。